

週報

2024年度 教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

<先週の説教から>

『詩編 42 - 私の魂は渴(かわ)く』

武田真治牧師

詩編 42 : 1-12 ヨハネ 7 : 37-39

本日の詩編42編は、昔から次の43編とひと続きの詩編として読まれて来た歴史があります。それは42編に2度出て来る《繰り返しの言葉》＝「なげうなだれるのか、わたしの魂よ〜」が、43編にも全く同じ言葉で出て来る点や、42編には《表題》＝「指揮者によって、マスキール〜」がありますが、43編には何も無い点などから、もともと一つの詩編であったのだらうと考えられます。それが2つに分けられた理由は、おもに2つの詩編の内容によると言い得ます。

さて、この42編では何よりも最初の節「涸れた谷に鹿が水を求めるように、神よ、わたしの魂はあなたを求める」が親しまれ、讚美歌にも用いられてきました(131、132番)。この祈り人の苦悩は、それほど“求めて”も今は得られない状態にあり、故に「わたしの魂は渴く」と述べているのですが、何をそれほど切実に“求めて”いるのかが重要なのです。

それが次の「いつ御前に出て、神の御顔を仰ぐことができるか」なのです。これは《礼拝》(＝この当時の状況で言えば、エルサレム神殿での礼拝)に出席することを“求めて”いる言葉なのです。まさに「わたしの魂」が「あなたを求める」理由なのです。どうでしょうか、私たちはこんなに切実に礼拝に出ることを求めているだらうかと思わされる程です。

この祈り人がこれ程まで《神殿での礼拝》を切に望んでいるのは、それが出来ない現実があるからでした。この後「わたしの魂はうなだれて、あなたを思い起こす。ヨルダンの地から」とありますように、エルサレムから遠く離れた地に居り、しかもおそらく、もはやエルサレム神殿はバビロニアによって破壊されてしまっていたからです。そして「人(＝周りに住んでいた外国人たち)は絶え間なく言う『お前の神はどこにいる』と」侮辱されている状況がありました。ユダヤ教の人達は代々、この詩編の祈り人と世界中に散らされている状態にある自分たちの境遇とを併せて読んできました。一

方で、キリスト者たちはこの詩編を人生に於いて、信仰の試練に立たされている時の祈りとして受け止めてきました。そして、その両方の状況に通じる言葉こそ、最初に紹介した《繰り返しの言葉》＝「なげうなだれるのか、わたしの魂よ、なげうのか。神を待ち望め。わたしはなお、告白しよう『御顔こそ、わたしの救い』と。わたしの神よ」ではないでしょうか。この言葉に言い表されている“信仰”こそ、私たちがどんな時も信仰を持って生き抜くため支えとなるのです！

イエス様は私たちに『渴いている人はだれでも、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる』(ヨハネ福音書8章37節以下)と約束してくださっています。主のもとでこそ“魂が満たされる”と。それはこの“礼拝で”、更には“み国で”与えられるのです。

【今週の集会】

*聖書研究・祈禱会 I. 5月8(水) 20:00
II. 5月9(木) 10:30

聖書: ハイデルベルグ信仰問答
祈禱主題: 母の日礼拝を覚えて
担当者: (水) 金刺 (木) 中澤
祈りに覚える人: 東さん 阿部さん

【教勢報告】

主日礼拝 男22 女52 計74
祈禱会 I. 男4 女3 計7 II. 男1 女10 計11
日曜学校 幼稚科4 小中科10 計14

【次週主日礼拝】 5月12日(日)

聖書: マタイによる福音書 5:38、43~45
説教: 「合同礼拝 ― 敵(てき)を愛せる?」
武田 真治牧師

讚美歌: 171(1)、32、200、533、60、24

【次週当番表】

司式: 相浦長老 奏楽: 村上 礼拝: 齋藤長老
献金: 兼川 金刺 受付: 鈴木 橋本
会堂準備: 飯島 岡本 金刺 中村
森本

看板: 岩佐 週報: 金刺 お花: 茨木

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会
礼拝後: ・牧師と語る会 ・お茶の会 ・聖歌隊練習
・壮年/婦人/ダビデ 各会

2024年 5月 5日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>